

人文研紀要

第31号～第33号(1998年)

◆第31号—1998年(1998年9月発行 A5版257頁)

Armenien1915/1916:Vom "vergessenen Volkmord" zum Prototyp moderner Genozidverbrechen	Uwe MAKINO
ナポレオン戦争期におけるドイツ愛国主義と反ユダヤ主義の生成	飯森 伸哉
ある非ユダヤ系現代ドイツ人作家の作品に描かれた ナチス政権下のユダヤ人犠牲者の姿についての断章 —ゲルト・ホーフマンの二作を中心に—	飯塚 公夫
リーメンシュナイダーの『哀泣祭壇』について	杉田 達雄
ワグナーの芸術と思想 —さまよえるオランダ人—	三富 明
出自との決別から生まれる物語 —イリヤ・トロヤノフ『世界は広く、助けは至る所に』について	鈴木 克己
高等学校の側からみたドイツ語教育	高木 良平
複文研究メモ(2) —日本語の分裂文—	野田 時寛
明代西域奉使団考	川越 泰博
中国革命と外国勢力 —孫文の対外宣伝(上)—	深町 英夫

◆第32号—1998年(1998年9月発行 A5版277頁)

ウェストミンスター寺院の「詩人記念堂」の歴史	岡地 嶺
A. C. Swinburne の <i>Tristram of Lyonesse</i>	森松 健介
『ハワーズ・エンド』の音楽技法	深澤 俊
T. S. Eliotの詩劇における覚醒 — <i>The Family Reunion</i> を中心にして—	松本 啓
融合する都市と事物 — ロレンス・ダレルの『アレクサンドリア四重奏』試論—	戸嶋 まゆみ
アルタモント, 天使の詩 — 『天使よ, 故郷を見よ』を読む	岡本 正明
フォークロア論再考	加藤 正泰
異文化要素を導き入れるもの — 乳と日本 食文化—	武山 智
太政官三院制下の右院に関する基礎的考察	中川 壽之
国民性論 (三) — 誕生原理の理論—	世良 正利

◆第33号—1998年(1998年9月発行 A5版241頁)

Jean—Richard Bloch et le débat sur le haïkai français	Haruo TAKAHASHI
Die Kreuzmystik Böhmes im Hinblick auf dieLeiblichkeit des Menschen	Hiroshi TOMITA
<i>Der Schüler Gerber</i> —Über das Verhältnis von Literatur und Film—	Suzanne Nishimura —Schermann
Liedermacher 研究(2) —旧西ドイツLiedermacherシーンの変遷—	高橋 慎也
ローベルト・ムージルの戯曲『夢想家たち』の余白に	須藤 直子
「アイルランド聖人伝」編纂の系譜とその性格(1) —17世紀の写本編纂をめぐる—	盛 節子
ゲーリック・リーグの拡大 —19世紀末アイルランド社会の一考察—	小田 順子
1990年代の大学改革と教員養成カリキュラム —「大綱化」の中の「規制強化」—	中野 光
萩原朔太郎 —『月に吠える』の成立—	中川 敏